

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 9月 20 日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	UC Davis Summer Session 2	派遣先大学:	UC Davis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
カリフォルニア州のデイビスという街にある。広大なキャンパスを持ち、獣医学や農学が盛んな大学。
参加した動機
馬について学びたいと思っており、UCDavis は獣医学の中でも主に馬についての研究や臨床がとても有名であったから。また、東大での夏休みの期間とSummer Session2の期間のタイミングがちょうど良かったから。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
履修登録、学費の支払い、宿泊施設の手配などは全て自分で行うため、英語でのやり取りが必要だった。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
アメリカ大使館が作成しているビデオを見ると分かりやすかった。ビザの申請は直接アメリカ大使館に行く必要がある。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特に行わなかった。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
東京大学が手配してくれている保険に加入した。利用しなかったが、UC Davisも、保険の手配を行ってくれるようだった。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特に行わなかった。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
普段から英字新聞を読んだりしていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
<p>自転車をレンタルする際に付いてきたロックが使いにくかったので、自転車を何かにつなげるものは使いやすいものを持参したほうがいいのかもかもしれない。</p>
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
<p>UC Davisが夏に行っている授業の中から選んで履修する形。現地の学生や留学生と一緒に授業を受ける。理系文系に関係なく、取りたい授業を履修することができる。普段の一学期分の授業を夏の6週間に詰めているスケジュールのため、宿題や試験の間隔が狭く、忙しい。</p>
②学習・研究面でのアドバイス
<p>大人数が履修する授業は大教室で行われ、主にスライドを用いて授業が進められた。授業の途中でも、手を挙げて質問することが出来た。また、TAのシステムが充実していて、授業時間外に質問を受けてくれたり宿題をチェックしてくれたりと手厚くサポートしてくれた。</p>
③語学面での苦勞・アドバイス等
<p>少人数の授業では、プレゼンテーションを行ったり、ディスカッションを行ったりした。質問などで発言をするとポイントが付く(出席していても、発言しないと欠席と同じになってしまう)システムだったため、最初は緊張したがなるべくたくさん発言しようと心がけた。プレゼンテーションなどは、ネイティブの学生も、私のような英語が上手でない学生も、内容で評価してくれたように思う。こちらの授業もTAが充実しており、レポートの添削などはとても役に立った。テンポよく会話に入っていくのは難しかったが、とても良い経験になった。</p>
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
<p>大学内の寮を利用した、三食、ダイニングで食事をとることができた。広くてきれいな寮だった。</p>
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
<p>雨は降らず、乾燥していてすっきりとした気候だった。大学周辺は治安が良く、Davis市内はバスや自転車で移動することができる。ほとんどのお店でクレジットカードが使えた。</p>
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
<p>キャンパスライフは、広い校内を自転車で移動するのがリフレッシュになり気持ちよかった。雨は一度も降らず、すっきりと乾燥した空気で過ごしやすかった。木々や芝生が多く、牛や馬も飼われており、外のベンチで勉強したこともあった。私は寮を利用したが、夜にラウンジで友達と勉強したりお話ししたりして、とても楽しかった。Davisの街はとても治安がよく、キャンパス外への買い物などものびのびと楽しめた。</p>
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
<p>航空費20万円、授業料35万円、家賃(食費付き)25万円、その他観光など15万円</p>
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
<p>東京大学の奨学金とJassoからの奨学金をいただいた。</p>

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
動物病院の診療や施設を見せてもらうことができた。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
学習面、生活面、精神面、全てサポートが充実していた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館には24時間学習できる部屋があった。ジムは大きく、充実していた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>ナチュラルスピードでの授業を受けたり宿題に追われたりと、日本で英語の勉強をするより真剣に英語で作業したため、聴く力、読む力は付いたのではないと思う。</p> <p>試験やレポートで書く必要があるため、英語を書く力も付いたと思う。</p> <p>話す力は、どのような授業を履修するかで大きく変わるように思った。講義を聴く授業では話す必要が無いため、授業自体ではスピーキング力は付かないかもしれない。少人数でディスカッションをする授業などを取れば、力は付くと思う。また、授業や寮でできたお友達と会話するのが、一番スピーキング力が上がると思った。</p> <p>また、英語力を上げるプログラムではなく、アカデミックな授業を受けるプログラムなので、履修した授業の内容はとても興味深く、たくさんの知見を得ることができた。特にUC Davisは農学、栄養学の分野がとても大きく研究されており、そこで授業を受けることができたのは貴重な経験となった。</p>
②参加後の予定
<p>そもそもUC Davisは獣医学で有名であり、将来そこで学んでみたいと思ってこのプログラムに応募した。Summer Session 2では獣医の授業は取れなかったが、獣医の教授とお話することができたり、診療を見せてもらうことができた。卒業後は海外で学びたいと漠然と考えていたが、具体的な授業形態、生活を体験することができたのは非常に良かった。また、進みたいコースも決まったので、そのコースに進めるよう、あと2年で準備をしていきたいと思う。しかし、今回のアメリカでの経験に固執せず、いろいろな国に行ってもっと多様な文化を見てみたいと思う。</p>
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>多くの親切な方々に出会えた反面、冷たくされて悲しい思いをしたこともたくさんあった。例えば施設の見学などを願う場合、とりあえずいろいろ見せてください、というのでは受け入れてもらえず最初は苦労したが、具体的に“この分野のこの研究に興味があります”などと言うと、認めてもらえるような印象を受けた。会話では相手の発言に質問を重ねていくうちに、さらにいろいろなことを聞いたり、見せてもらうことができた。よく言われることだが、アメリカという国では自分の意思をもって堂々としていることが大切だということ、経験を通して実感した。</p>
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
英字新聞、大学のサイト
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月19日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	UC Davis Global Study Program Summer Session	派遣先大学:	University of California Davis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

UC Davis はカリフォルニア州中部に位置する生物系の研究において有名な大学です。キャンパスの敷地は非常に大きく、聞くところによるとUC系列の中で最大の広さを誇るようです。

参加した動機

アメリカの大学生は日本の大学生よりも非常によく勉強すると聞いていました。私は生物系の研究に興味を持っており、いつか海外の学者と切磋琢磨することが予想されます。そこでアメリカでは大学生はどのような授業を受けてどのような思考を磨くのかといったことに興味を持ちました。さらに日本国外に出ることで現地の文化をありのままに体験できます。そこで、今回の留学に参加することを決めました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

選考前の段階では募集要項を見つけるのが遅く留学に行くことと決心したのが急であったため、急いで必要な書類を作成したり集めてこなければいけません。留学に行くことが決定した後も授業の選択や必要書類の送信を締め切り間近に行い、慌てたのもっと時間にゆとりを持って行うべきであったと反省しています。さらに大学のメールをチェックするのを忘れていたため、支払いを催促するメールに気が付くのが遅くなってしまいました。中にはすぐに返信を要するメールもあるので大学のメールアカウントを作ったら毎日少なくとも一回は受信箱をチェックするよう心がけると良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザはF1をとりました。UC DavisからI20が送られてきた後、手続きを始めることができます。夏休み前はビザ面接の予約を取るのが難しいと聞いていたため、早めに手続きを済ませて面接の予約を取り、ビザを取得しました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

出国前に歯科に行き、歯の調子を見てもらいました。また、よく喉が腫れるのでクリニックに行き抗生物質を処方してもらい、持参しました。幸い必要になることはありませんでした。しかし虫刺されの後がかぶれてしまったので、皮膚科に行きそちらの薬も処方してもらった方が良かったです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学指定の保険に加入しました。UC Davis から加入を勧められた保険がありましたがそちらには加入しませんでした。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラム開始日がSセメスターの期末試験最終日と重なっており、いくつか試験を受けられないことが懸念されたため必要以上の単位数を受講し、進学に必要な単位数を確実に取得できるように備えました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

留学1か月ほど前から通学電車の中でABCニュースを聞き、耳を慣らすようにしていました。また、スピーキングに関しては一度だけ国際交流系パーティーに出席し、外国人と英語で会話する機会を作りました。参加したのは一回のみであったため、話す能力を伸ばすというよりは自分が現時点でどの程度まで話すことができるのかを知ることができました。今回の留学は昨年11月頃に受験したIELTSの点数で応募しましたが、出発前には特に英語の試験は受けませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日用品は基本的に現地で購入することができるので問題ありませんでした。私は万が一に備えて真空パックのご飯を持って行きました。実際、アメリカの油の多い食事に体がついていけなかった時に寮の電子レンジで温めて食べました。とてもおいしく感じたのを覚えています。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

生物学と栄養学の授業を受講しました。まず生物学の授業についてですが、授業は週五日毎日あり、講義とディスカッションが交互にありました。講義は隣の席の学生とのディスカッションを交えながらスライドに沿って進められました。ディスカッションは四人ほどのグループで話し合い、TAからの質問に答えながら講義内容をより詳細に見て復習をしました。予習、復習はシラバスに書いてあることに沿って行いました。予習ではネット上で行う課題と読み物が課せられ、復習では授業の復習問題を解きました。復習よりも予習の量が多い授業でした。次に栄養学についてですが、こちらの授業は全て講義でディスカッションは行いませんでした。予習は特に指定されず、復習では教科書の章末問題を解きました。栄養学の授業にはextra creditが多く、章末問題を解いて提出したり補講授業に出席することでボーナスポイントを得ることができ、点数を伸ばしやすかったです。

②学習・研究面でのアドバイス

多くの学生はoffice hour を利用していました。Office hour とは先生もしくはTAが直接質問に答えてくれる時間のことです。この時間に指定された教室に行くと先生もしくはTAを囲んで多くの学生が各自の疑問点を解決するために質問を交わっていました。特にTAは歳が近くて親しみやすく、気軽に質問をすることができました。この制度良いところは、面識のない学生同士が互いに質問をし合って問題を解決していたところ。質問した側は問題を解決することができ、質問をされた側は他人に説明することで自分の理解を確かめることができます。また、私は現地の学生と仲良くなり、毎日のように一緒に勉強しました。現地の学生と仲良くなることで英語を話す機会が増え、とても有意義な勉強時間を過ごすことができました。

③語学面での苦労・アドバイス等

生物学は東京大学で一年生のうちに学んだことを授業で扱ったため復習という形になりました。まず苦労した点は日本語で習った生物学用語と英語での用語を一致させることです。しかし一度一致させることができれば講義は主にそれらの用語を使って進められるので聞き取りやすくなり、理解しやすくなりました。一番大変だったのがやはり授業内のディスカッションです。自分の意見を言いたいけれども単語が思いつかず言葉に詰まってしまうことが多々ありました。優しい学生が多く、一生懸命耳を傾けて私のつたない英語を理解しようとしてくれました。時間をかけてでも自分の意見を伝えようと努力することが大切です。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

私はキャンパス内の寮(Conference housing)に滞在しました。Summer session 毎に募集をかけていたので途中で移動しなければいけないこともなく、また食事も休日も含めて三食出してくれるので大変快適でした。寮では何度か皆でゲームをしたり映画を見る機会があり、他の学生との交流を深めることができました。滞在中の学生は秋から一年生になる学生が多かったです。私はsummer session だけ授業を取っている中国人の子と部屋をシェアしました。週末は彼女と一緒に観光に行ったりすることができました。寮では多くの友達を作ってカードゲームをしたりダウンタウンに外食に行くことができ非常に楽しかったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

45日間滞在しましたが、雨は一度も振らず一日だけ曇りの日があっただけであとは晴れ続きでした。とても乾燥していて、汗もあまりかきませんでした。気温は到着した7月下旬から8月上旬にかけては非常に高く、8月下旬になってからわずかに下がったように感じました。外の気温は高くても建物内の気温はとても低いので上着を持ち歩いていました。キャンパスの敷地は非常に広く、徒歩では移動が困難であったため自転車を借りていました。Davis は自転車の町で多くの人が自転車を利用していました。自転車があればダウンタウンの方も自由に回れるので便利でした。食事は主に寮とセットになっていたカフェテリアを利用しました。カフェテリアは時間が制限されていたため、食事を逃してしまった時は大学内の他の学食のようなお店を利用したり寮の近くのコンビニを利用しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

Davis は非常に治安の良い街で、ダウンタウンにも多くの学生や家族連れが見受けられました。ただ自転車の盗難は多いようで注意が必要です。いくら治安が良いとはいっても、夜はあまり遅くまで出歩かないようにしました。現地では虫に刺されて水泡ができてしまったため一度キャンパス内のクリニックに受診しました。大学内では心身の健康をケアする施設が充実していました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空機は全部で25万円(帰りにミネソタ観光に行きました)、授業料は40万円、教科書代は1万円、寮の費用は25万円で食費や娯楽費を含めると100万円を超えていると思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

条件を満たすことができず、受給できませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

キャンパス内には非常に大きいジムがあり、授業後にランニングをしに行きました。学生証を提示すれば無料で利用することができ、充実した施設を満喫しました。週末にはヨセミテ国立公園やサンフランシスコ、パークレー校などに観光に行きました。車がなかったため、ツアーやシャトル、アムトラックを利用して外出しました。カリフォルニア州には観光名所がたくさんあり、楽しめました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

私はGSP(Global Study Program)というプログラムに参加していて、GSPのスタッフ4人ほどにお世話になりました。出国前で分からないことがあればGSPのスタッフにメールで聞くことができました。また、現地では履修を組むのにお世話になりました。さらに、何度か交流会を開催してくれたためGSPの他の学生と交流する機会もあり、サポート体制は充実していました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学には非常に大きい図書館がありました。私は利用しませんが24時間空いている自習スペースもあるようです。パソコンは図書館内の他にも寮のサービスカウンターが入っている建物内にもあり、印刷もそこで済ませることができました。印刷代は自分のアカウントにチャージされ、後程請求が来ます。上にも書いたようにキャンパス内には大きくて充実したスポーツ施設がありました。スターバックスなどのお店もいくつかあり、快適なキャンパスライフを送ることができます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

現地の大学の授業を受けてみて、勉強量の多さを身に染みて感じる事ができました。また、授業スタイルの違いを感じました。特に生物学の授業では授業中も先生が提起した問題に対して隣の学生と議論する場が設けられ、さらにディスカッションの授業があり、学生の理解を深める大きな助けになっていたと思います。学生も授業中に手を挙げて質問したり教師が提示した問題に答えたりして積極的に授業に参加しているのが非常に印象的でした。さらに授業の進度は非常にゆっくりで段階を追った授業をしていました。以前に学んだ知識の確認をしつつ時間をかけてじっくり学ぶ姿勢が見受けられ、このような授業スタイルが思考や知識の定着に繋がると考えられました。TAがディスカッションの授業や補講の授業を持っていることも印象的でした。学生が授業に親しみやすくなるだけでなく、TAも授業をしたり、人に何かを伝える練習になり、非常に有意義な教育方法であると思いました。個人的に成長したこととしては、英語をためらいなく話せるようになったことであると思います。単語の選択を誤ったり文法を誤ることを恐れずに言葉を発することができるようになりました。

②参加後の予定

話聞いていたように実際、アメリカの学生は多くの時間を勉強に割いているようでした。将来、国際的に働くことを考えるとアメリカの大学生と同じくらい熱心に勉強に励みたいと思いました。また、色々なことに興味を持ち、探求心を忘れずに学習していきたいです。学生に考えさせ、自分の意見を発信させる機会が多い教育に関心を持ち、いつかまたアメリカの教育を受けたいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

一か月半は非常にあっという間でしたが、普段過ごしている一か月半という期間以上に多くのことが詰まった期間でした。留学前は一人で海外に出向き、異国の文化の中英語を使って生活することに不安を感じていましたが実際に行ってみると不安よりも感動や驚き、好奇心の方が勝り、帰国前にはまだアメリカに残ってこの生活を続けたいと思うほどでした。ただ語学勉強をするだけでなく、異国の地で異国の文化に触れ、外国語の中で生活することは大きな経験となると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

過去のプログラム体験記を参考にしました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月17日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	full time academic credit summer session 2	派遣先大学:	カリフォルニア大学デービス校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 航空宇宙)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学デービス校、UC Davis。

参加した動機

大学院でアメリカに留学する予定のため事前に日常会話やアカデミックな場での英語スキルを身に付けておきたいと考え応募した。またアメリカの大学の生徒や大学内の雰囲気以前から興味を持っていたため実際に現地の学生と同じ授業をうけてみたいとも考えていた。大学1年生の際に、英語力をあげるため国際交流系のサークルに入ったが結局ほとんど英語を使わなかったことから、2年生の間に短期間ではあっても英語圏での生活してみたいと考え1年生のころから計画していた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

学校を通しての奨学金受給手続きと、派遣先大学のウェブサイトで簡単なアプリケーションを書いた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F1ビザ。アメリカ大使館のホームページで簡単なフォーム入力と面接予約をした後大使館で手続きをした。私はかなり直前に手続きをしましたが渡航の一か月前にはとっておくことをお勧めします。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

頭痛・腹痛時用の痛み止めなどを持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学保険のみ

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

履修していた授業の期末試験のひとつがオリエンテーションにかぶり受験できなかったが、追加課題を用意してもらったので単位をとることができた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語で話す海外の友人が複数人いたため発音やリスニングなどには慣れており、とくに心配していなかった。英語力証明には昨年受験したTOEFLのスコアを使用した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

私は参加しなかったがDavisにはさまざまな学生団体やクラブ活動があり、授業と課題以外の時間を有意義に使いたいのであれば事前にどのような活動に参加したいのか考えておくとうよいと思う。また、東大から参加した他の学生が何人か受けていたGSP生徒向けの英語の授業があるが、プレゼンテーションの練習などをするクラスなので、実際に現地での生徒と同じような授業をしっかり受けたいと思っているならば他の授業をとるのがお勧め。

⑧ 授業

・Intro to Acting・・・演劇の授業。アイスブレイクのシアターゲームから始まり個人のモノローグシーンやペアでの演劇、finalではクラスメート全体で一つの劇を作った。演劇などに興味がない人も受講しており、人とのコミュニケーションスキルや感情の表現の仕方などを実践で学んだ。実践的な授業なので予習復習などはとくになく、発表の前に演技の練習をする以外には授業外ですることはなかった。・Orbital Mechanics・・・ロケットや人工衛星などの軌道について力学を使って学んだ。力学を履修しおわっているというprerequisiteがあつたが、教授に相談したところ履修できることになった。周りは4年生ばかりで肩身が狭かつたが短期間で相当量のテキストをこなした。

③語学面での苦勞・アドバイス等

日常会話で困ることはほとんどなかったが、教授の声が小さいので聞こえないことがよくあつた。理系の用語がわからないことも多々あつたのでそのたびに辞書で調べていた。個人的にとても充実していたと思うのは、韓国人や中国人の友達にそれぞれの言葉をたくさん教えてもらうことができた点で、英語以外にも第二外国語として勉強していた中国語などの練習をすることができた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Segundo Conferense Housingで、インド人のルームメイトが一人いた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

常に晴れており、乾燥していた。キャンパスをすこしでたところにDavisダウタウンがあり、Farmer's marketという屋台やレストランなどがある。平日は授業のあとにARC(後述)で運動をし、友達と時間を過ごしてから寮にもどり夜ご飯、そのあと宿題をするというスケジュールだった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は他のアメリカの都市とくらべるととてもいいほうで、夜中でも特に心配することなく散歩することができた。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

8unitsとつたので授業料は40万円弱。UberやAmtrak, Bartなどを合わせた交通費は8万円ほど。student housingでの宿泊とダイニングホールでの一日三食を合わせて20万円、教科書は中古の2万円弱のものを購入し、サクラメントやサンフランシスコなどDavis周辺での雑費やショッピングなど合わせて10万円。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学から16万円、JASSOから16万円の合計32万円もらった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラムのはじめにオリエンテーションがありmental care officeなどの案内をしてくれる。寮のちかくにhealth wellness centerという学校の病院のようなものがある。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はかなり大きくて綺麗で、24時間空いているスタディールームもある。ARC(Activities and Recreation Center)というジムが寮の近くにあり、夜10時までやっているので便利。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学のレベルアップを目的に参加したが、それだけにはとどまらず沢山の人の価値観を共有することができた有意義な6週間だった。

②参加後の予定

3年時に一年間全学交換留学をしたいと思っている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

普段のせまくなる生活から離れて自分そして他者に向き合うのにはとてもいい場所である。大学の周りにうるさい町がないこともあってかなり穏やかに暮らせるので、ぜひ夏の間だけでも来てみることを勧める。

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

<https://www.ucdavis.edu/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月23日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	UC Davis Summer Session 2	派遣先大学:	UC Davis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 電機・IT)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

UC(University of California)のうちの一つ。農学系の分野で特に強みを持っているそうです。自然豊かで広いキャンパス内は多くの自転車が行き交っていました。UC Davisが位置するDavisは、San Franciscoから電車で3時間程の場所に位置する安全な街で、ホームレスもほぼ見かけず快適な環境でした。

参加した動機

英語論文の精読・執筆や国際学会での発表が求められる大学院での研究活動に向けて、今のうちから自分の専門分野を英語で学習したかったからです。また将来海外で働く可能性も考えて、英語圏での生活を体験してみたかったというもあります。
語学留学でなく、現地の学生と共に専門科目を腰を据えて学べるという点でUCのSummer Sessionがとても魅力的だと感じていました。その中でも特に大学側が教育に熱心で、なおかつ治安がよく自然豊かで学習に適した環境であるUC Davisのプログラムを希望しました。

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

分からないことがあったら現地の大学に直接メールしてしまうのが手取り早いですが、授業は、人気のあるもの(例えばComputer Scienceなど)は早々と埋まってしまうので早めに希望を出しましょう。他にもホームステイやビザなど何でも早めに対応していくと安心だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

大学から送られてくるI-20という証明書を使い、アメリカ大使館にてF1ビザを取得します。このI-20は渡航時にも忘れずに持っていきましょう。ビザ面接はあらかじめオンラインで予約する必要があり、夏は混んでいるので早めにチェックしておく方が良いと思います。大使館でも待ち時間が長いので、なるべく朝一で行くと良いのではないのでしょうか。面接後、2週間弱でビザが貼られたパスポートが家に送られてきました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯医者で検診をしてもらいました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から指定された保険に加入しました。

<p>⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)</p>
<p>特に行っていません。</p>
<p>⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)</p>
<p>TOEFLは2年の秋に受けた時点で80点強でした。Skype英会話のサービスや、東大に来ている留学生と一緒にお昼を食べながら英会話できるInternational Friday Lounge(@本郷キャンパス工学部11号館2F、毎週金曜日)等に参加して喋る機会を作っていました。</p>
<p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど</p>
<p>週末等を利用して旅行に行きたいなら、日本語のガイドブックを一冊持っていくと便利かと思います。</p>
<p>学習・研究について</p>
<p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)</p>
<p>GSP生向けのプレゼンの授業(週1回、2単位)と、MATLABというプログラミング言語を基礎から学ぶEngineeringの授業(講義週3回、演習週1回、4単位)を履修しました。プレゼンの授業は東アジアの留学生が多く、和気藹々とした感じで毎週いろんなテーマ(週末旅行した場所、UC Davisのオススメしたい施設、など)のプレゼンをしました。MATLABの方はスライドに沿って授業を進めていく形で、週1でLabがある他、毎週課題が出されました。また最後の方にTeam Projectがあり、3人組でGUIアプリを完成させ、機能を紹介する動画をYouTubeに投稿するというものでした。</p>
<p>②学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>Piazzaというサイトに授業や課題の質問が自由に投稿でき、教授やTAが回答してくれているので、自分の履修した授業がPiazzaにあるかチェックしてみると良いと思います。自分はこのサイトでTeam Projectのメンバーを募集しました。 UC DavisのSummer Session1か2のどちらかのみに参加する場合、合計6単位以上を履修する必要があるのですが7単位以上になると追加の授業料が発生します。ただ通常の授業は4単位や5単位であることが多く、6単位ちょうど揃えることは難しいです。そこで例年GSP生のために2単位の英語の授業が開講されていて、今回はそれがプレゼンの授業でした。英語力に自信がないと現地の学生にはなかなか声をかけづらいかとも思うので、留学生同士仲良くなれたこの授業は良かったと思います。</p>
<p>③語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>ネイティブ同士の会話を聞き取るのに苦労しました。ニュースやTOEFLなどのきれいな英語ばかりでなく、英語字幕ON/OFF機能があるオンラインの動画サービスで海外ドラマを見たり、洋楽を聴いたりといったことをもつとすれば良かったかなと思います。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学から紹介されたDavis Housing Servicesでホームステイ先を紹介してもらいました。料金は6週間で\$1,000強と、別に仲介料が\$300程度でした。食事や家族構成などの希望を出すことができます。UC Davisまで自転車です15分ほどの家にステイしたのですが、両親とも忙しくほぼ家を空けていたので実質一人暮らしのような感じでした。</p>

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Davis滞在中雨は一度も降らず、終始カラッと晴れていました。日中は気温は結構上がり、40度近くまで行く日もありました。サングラスと日焼け止めは必須だと思います。またDavisは自転車の街で、バイクレーンがあったり駐輪場があらゆる場所にあって自転車で街を移動するのがとても便利でした。日本料理店や東アジアの食材を扱うスーパーもいくつかありました。金銭面については、渡米前にキャッシュパスポートにお金を入れておき、キャッシュカードのように現金を引き出して使っていました。ただクレジットカードの方がレートは良いので、前もって限度額を上げておいてほぼクレカで済ませるのが良いかもしれません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

街は安全で、特に怖い思いはしませんでした。ただ借りた自転車がマウンテンバイクで乗り慣れていなかったこともあり、渡航数日後に自転車で転んで怪我をしてしまいました。薬局で絆創膏と化膿止めを購入して乗り切りました。大抵のものは現地調達できると思いますが、常備薬の飲み薬等は日本から持っていくと安心かもしれません。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

合計100万円程度だと思います。内訳は以下。
航空賃:22万円
授業料:34万円
教科書・教材費:1万円
ホームステイ代:13万円
現地での食費・旅行費など:20万円
その他(スーツケース、保険、WiFiモバイルルーター等):7万円

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大生海外体験プロジェクトから16万円、JASSOから16万円いただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

無料で自由に使える体育館がとても充実していて、筋トレ、バスケットボール、バドミントン、ランニング、ボルダリング等々さまざまなアクティビティが楽しめます。週末は日本人同士で旅行に出かけていました。他には、International PartyがDavisのダウンタウンで毎週金曜日に開催されていたり、GSP生同士の交流会が最初の方にあってるので積極的に顔を出してみるといいかと思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UC DavisのGSP(Global Study Program)専属のスタッフさんが何人かいらっしや、渡航前も現地でも親切に対応してくださります。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館に24時間使える自習室が併設されていて、よく利用していました。食堂はCoffee HouseとSiloの2種類があり、ピザやバーガーの他にも寿司が売ってたりしました。Arcと呼ばれる体育館は室内も土足のまま利用できました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

現地の学生と肩を並べて英語で授業を受けられたことが最大の意義だったと思います。スライドや教科書で復習しながら授業に追いついていくことで、語彙力や速読力も身についたかなと感じます。また日本で英語のプレゼンをする機会が少なかったためGSPのクラスはやや苦痛に感じられましたが、自分の実力を知ることができて良い経験になったと思います。

②参加後の予定

この経験を活かし、将来海外で働ける機会があれば挑戦してみたいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

履修する授業にもよりますが、意外と自由な時間があるので、現地の学生や留学生と友達になってご飯を食べたり遊びに行ったりできたら楽しいし、英語を使う機会も増えるので良いことだと思います。語学面で不安を感じる人は、月並みですがとにかく英語をたくさん聞いてシャドーイングをしたり、英語で話せる場に積極的に赴いてみたりすると良いのではと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go GlobalのWebサイト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。